

相原中学校の状況

～令和元年度全国学力・学習状況調査の結果から～

平成31年4月18日に3年生を対象に実施されました全国学力・学習状況調査の結果について、校内において結果の分析を行い、本校のよい点や課題、課題について整理いたしましたのでその概要をお知らせします。

なお、この本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。この調査結果に一喜一憂するのではなく、今後の教育活動に生かし、引き続き生徒一人ひとりの学力向上を目指し取り組んでまいります。保護者の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

1 教科に関する調査からわかる本校生徒の特徴

概要

- 国語においては、本校の平均正答率は全国や神奈川県と比べて大きく上回っており、またすべての設問においても全国や神奈川県よりも正答率は上回っており、高い理解力を示しています。
- 数学においても、本校の平均正答率は全国や神奈川県と比べて大きく上回っており、高い理解力を示しています。
- 英語においては、本校の平均正答率はすべての設問において全国や神奈川県よりも上回り、高い理解力を示しています。
- 国語・数学・英語ともに、主な特徴や課題については、全国の分析結果とほぼ同様の傾向を示しています（以下参照）。

教科別の特徴

- 国語では、「文章に表れているものの見方や考え方について自分の考え方をもつ」においては、相当数の生徒ができています。一方で、「封筒の書き方を理解して書くこと」では、全国・県の正答率を上回ってはいるものの、3割程度の生徒が誤答している状況にあります。
- 数学では、「平行移動の意味を理解している」では、相当数の生徒ができています。一方、「数の集合と四則計算の可能性について理解している」では、唯一全国・県の正答率を若干下回っている状況です。
- 英語では、「語と語の連結における音変化を捉えて情報を正確に聞き取ることができる」では、相当数の生徒ができています。一方で「書かれた内容に対して話の内容や聞き手の意見などを捉えることができる」については、全国・県よりも正答率は上回ってはいるものの、正答率は20%程度と低い状況です。

2 質問紙調査からわかる本校生徒の特徴（次項参照）

- いじめ防止への意識の割合は全国に比べて高く、9割近い生徒が肯定的に回答しています。一方、地域・社会への改善意欲や社会参加等については昨年度同様、意識が低いことがうかがえます。
- 家庭で計画的に学習に臨んでいる生徒は5割程度となっており、今後さらに家庭での学習の習慣化が望まれるところです。
- 3割強の生徒が、授業の時間以外にまったく読書をしていないと回答しています。読書を通して語彙力や文章力の向上はもちろんのこと、いろいろなものの考え方に触れることで想像力や思考力が豊かになるものと考えます。わずかな時間であっても活字にふれる習慣を身につけていきたいものです。

3 今後の改善点やお願い

- 学校生活のあらゆる場面をとおして、教師自らも人権意識を高め、生徒に寄り添い、いじめや差別・偏見を許さない生徒の育成に努めてまいります。
- 学校では今後も、生徒たちの主体的な学びが触発されるよう、さらに質の高い授業づくりを目指してまいります。ご家庭におかれましても家庭学習の習慣化に向けてよろしくお願いいたします。
- ご家庭では引き続き、携帯電話やスマートフォンの使用時間について、家庭でのルールを決めて実行できるよう話し合い等の継続をお願いします。

参 考 (平成31年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査結果から抜粋)

